

ネズミムギ(イタリアンライグラス) イネ科, 一年生(越年生)

難 警 抵

牧草や法面の緑化用として導入されたイタリアンライグラスが野生化・定着し、麦類ほ場に侵入したと考えられている。本県では2000年初頭までは麦類ほ場で問題となっていなかったが、現在、連作ほ場で収穫放棄される事例が複数報告されている。



形態的特徴	株全体が無毛で、葉耳は茎を抱く。葉は巻いて抽出し、葉身は線形で、表面は平行脈(葉脈)が目立ち、裏面は光沢がある。葉鞘は暗紫色を帯びる。出穂すると草丈は1.5mを越える。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・種子は1年で9割以上出芽・死滅すると報告されており、蔓延するのは連作ほ場である。 ・本県では、出芽は9～11月に集中する。 ・出芽深度は2cm程度である。 ・他県で除草剤抵抗性個体が確認されている(グリホサート, グルホシネート抵抗性)
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・播種前の耕起で完全にすき込めない場合は、非選択性除草剤を散布する。(播種前に発生した個体が再生すると大型化し、多量の種子を生産する) ・土壌処理剤は全般に効果が高くないが、リベレーターフロアブルやリベレーターG, ボクサーの効果が比較的高い。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・播種前に発生した個体が再生しないように、耕起作業を丁寧に行う。 ・晩播により出芽期間を短くする。 ・種子の生存期間が短いので2年間以上水稻や大豆などへ作付け転換する。
備考	指導活用技術「麦類連作における難防除雑草ネズミムギの対策」(普及に移す技術第95号)